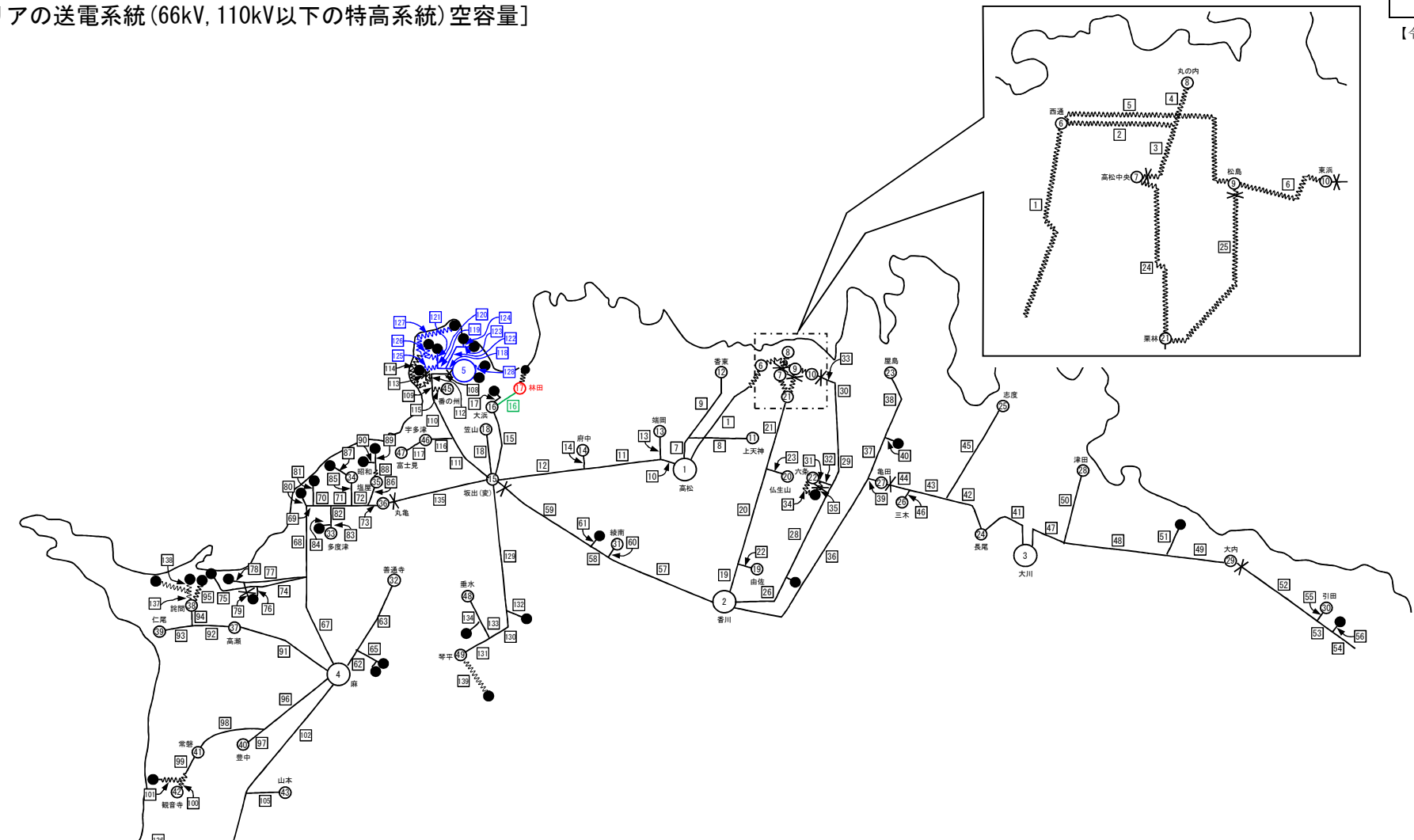


[四国エリアの送電系統(66kV, 110kV以下の特高系統)空容量]



【凡例】

- : 187kV変電所
- : 66kV変電所
- ⊗ : 開閉所
- : その他
- : 66kV送電線
- : 22kV送電線
- ( ~~~~~ ) : は地中線を表す

【凡例の色分け】

- 黒色: 空き容量があり、平常時出力制御<sup>1</sup>が発生する可能性が当面低い系統
- 緑色: 空き容量が無いが、N-1電制が適用可能(特別高圧に連系する電源に限る)であり、平常時出力制御が発生する可能性が低い系統
- 赤色: 空き容量が無く、N-1電制が適用不可能であり、今後新規電源の申込によって平常時出力制御が発生する可能性のある系統<sup>2</sup>
- 青色: 空き容量が無く、平常時出力制御が発生する可能性のある系統  
平常時出力制御が発生する可能性(ノンファーム型接続)については、想定潮流の合理化の考え方<sup>3</sup>に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定しております。

<sup>1</sup> 系統容量の制約による出力制御  
<sup>2</sup> 電源接続案件一括検討プロセスを実施中の系統、増強工事中の系統を含む  
<sup>3</sup> [https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330\\_souteichoryu\\_gourika\\_shiryou.html](https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html)

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。  
 ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載  
 ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載  
 ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。  
 #1 1回線送電線のため  
 #2 配電用変電所のため(高圧電源の系統連系の場合、N-1電制は対象外となります。)  
 #3 2回線送電線の分割運用等のため  
 #4 1バンク変電所のため
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。なお、高圧系統に接続される電源の場合、N-1電制は対象外となります。
- (6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方\*に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。  
 \* [https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330\\_souteichoryu\\_gourika\\_shiryuu.html](https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryuu.html)
- (7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (9) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開していません。

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御が 必要となりうる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
1	西通線	66	4	380	285	熱容量	285	285	可	95	-	-	-	※3
2	西通中央線	66	3	150	50	熱容量	50	50	不可#1	-	-	-	-	※1
3	西通中央線	66	3	84	28	熱容量	28	28	不可#1	-	-	-	-	※1
4	丸の内支線	66	3	57	19	熱容量	19	19	不可#1	-	-	-	-	※1
5	西通松島線	66	2	190	95	熱容量	95	95	可	95	-	-	-	
6	松島東浜線	66	3	84	28	熱容量	28	28	不可#1	-	-	-	-	※1
7	上天神線	66	2	394	197	熱容量	197	197	可	197	-	-	-	
8	上天神線	66	2	200	100	熱容量	100	100	可	100	-	-	-	
9	香東支線	66	2	182	91	熱容量	91	91	可	91	-	-	-	
10	高松坂出線	66	4	500	429	熱容量	252	252	可	71	-	-	-	※3
11	高松坂出線	66	4	500	429	熱容量	260	252	可	71	-	-	-	※3
12	高松坂出線	66	4	500	429	熱容量	278	252	可	71	-	-	-	※3

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御が 必要となりうる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
13	端岡支線	66	2	250	125	熱容量	116	116	可	125	-	-	-	※1
14	府中支線	66	2	84	42	熱容量	32	32	可	42	-	-	-	※1
15	大浜線	66	2	158	106	熱容量	11	11	可	52	-	-	-	
16	林田線	66	2	158	79	熱容量	0.0	0.0	可	65	-	-	-	
17	需要家線	66	1	-	-	熱容量	32	11	-	-	-	-	-	◇
18	笠山線	66	2	116	58	熱容量	58	58	不可#3	-	-	-	-	※1
19	栗林線	66	4	480	360	熱容量	341	37	可	120	-	-	-	※3
20	栗林線	66	4	480	360	熱容量	360	37	可	120	-	-	-	※3
21	栗林線	66	4	480	360	熱容量	360	37	可	120	-	-	-	※3
22	由佐支線	66	2	182	86	熱容量	51	37	可	96	-	-	-	
23	仏生山支線	66	2	116	58	熱容量	56	37	可	58	-	-	-	
24	栗林中央線	66	3	90	30	熱容量	30	30	不可#1	-	-	-	-	※1
25	松島線	66	2	112	56	熱容量	56	37	不可#3	-	-	-	-	※1
26	東浜線	66	2	250	125	熱容量	114	37	可	125	-	-	-	
28	東浜線	66	2	250	125	熱容量	124	37	可	125	-	-	-	
29	東浜線	66	1	76	76	熱容量	76	37	不可#1	-	-	-	-	※1
30	東浜線	66	1	76	76	熱容量	76	37	不可#1	-	-	-	-	※1
31	六条支線	66	2	182	91	熱容量	90	37	可	91	-	-	-	
32	六条支線	66	2	182	91	熱容量	90	37	可	91	-	-	-	
33	東浜支線	66	1	58	58	熱容量	58	37	不可#1	-	-	-	-	※1
34	需要家線	66	1	-	-	熱容量	42	37	-	-	-	-	-	◇
35	需要家線	66	1	-	-	熱容量	42	37	-	-	-	-	-	◇
36	屋島線	66	2	316	158	熱容量	119	37	可	158	-	-	-	
37	屋島線	66	2	250	125	熱容量	113	37	可	125	-	-	-	
38	屋島線	66	2	250	125	熱容量	113	37	可	125	-	-	-	
39	亀田支線	66	2	244	122	熱容量	95	37	可	122	-	-	-	
40	需要家線	66	1	-	-	熱容量	42	37	-	-	-	-	-	◇
41	大川長尾線	66	2	250	125	熱容量	67	67	可	125	-	-	-	
42	長尾線	66	2	250	125	熱容量	105	67	可	125	-	-	-	
43	長尾線	66	2	158	79	熱容量	74	67	可	79	-	-	-	
44	長尾線	66	2	158	79	熱容量	79	67	不可#3	-	-	-	-	※1
45	志度支線	66	2	84	42	熱容量	28	28	可	42	-	-	-	
46	三木支線	66	2	130	65	熱容量	60	60	可	65	-	-	-	※1
47	大内線	66	2	250	125	熱容量	93	93	可	125	-	-	-	
48	大内線	66	2	250	125	熱容量	102	93	可	125	-	-	-	
49	大内線	66	2	250	125	熱容量	102	93	可	125	-	-	-	

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御が 必要となりうる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
50	津田支線	66	2	84	42	熱容量	33	33	可	42	-	-	-	
51	需要家線	66	1	-	-	熱容量	42	42	-	-	-	-	-	◇
52	板野大内線	66	2	208	104	熱容量	104	57	不可#3	-	-	-	-	※1
53	板野大内線	66	2	208	104	熱容量	95	57	可	104	-	-	-	※1
54	板野大内線	66	2	206	103	熱容量	94	57	可	103	-	-	-	※1
55	引田支線	66	2	84	42	熱容量	33	33	可	42	-	-	-	※1
56	需要家線	66	1	-	-	熱容量	42	42	-	-	-	-	-	◇
57	坂出連絡線	66	2	158	79	熱容量	56	37	可	79	-	-	-	
58	坂出連絡線	66	2	158	79	熱容量	79	37	可	79	-	-	-	
59	坂出連絡線	66	2	158	79	熱容量	79	37	不可#3	-	-	-	-	※1
60	綾南支線	66	2	84	42	熱容量	19	19	可	42	-	-	-	
61	需要家線	66	1	-	-	熱容量	42	37	-	-	-	-	-	◇
62	普通寺線	66	2	250	125	熱容量	99	99	可	125	-	-	-	
63	普通寺線	66	2	250	125	熱容量	119	99	可	125	-	-	-	
65	需要家線	66	1	-	-	熱容量	22	22	-	-	-	-	-	◇
67	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	375	375	可	125	-	-	-	※3
68	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	375	375	可	125	-	-	-	※3
69	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	375	375	可	125	-	-	-	※3
70	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	375	375	可	125	-	-	-	※3
71	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	375	375	可	125	-	-	-	※3
72	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	375	375	可	125	-	-	-	※3
73	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	375	375	可	125	-	-	-	※3
74	需要家線	66	1	65	65	熱容量	65	65	不可#1	-	-	-	-	※1
75	需要家線	66	1	-	-	熱容量	65	65	-	-	-	-	-	◇
76	需要家線	66	1	-	-	熱容量	42	42	-	-	-	-	-	◇
77	需要家線	66	1	65	65	熱容量	65	65	不可#1	-	-	-	-	※1
78	需要家線	66	1	-	-	熱容量	65	65	-	-	-	-	-	◇
79	需要家線	66	1	-	-	熱容量	42	42	-	-	-	-	-	◇
80	需要家線	66	1	-	-	熱容量	32	32	-	-	-	-	-	◇
81	需要家線	66	1	-	-	熱容量	32	32	-	-	-	-	-	◇
82	多度津支線	66	2	94	47	熱容量	45	45	可	47	-	-	-	※1
83	多度津支線	66	2	94	47	熱容量	45	45	可	47	-	-	-	※1
84	需要家線	66	1	-	-	熱容量	27	27	-	-	-	-	-	◇
85	昭和支線	66	2	172	86	熱容量	86	86	可	86	-	-	-	※1

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御が 必要となりうる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
86	塩屋支線	66	2	158	79	熱容量	79	79	可	79	-	-	-	
87	需要家線	66	1	-	-	熱容量	32	32	-	-	-	-	-	◇
88	需要家線	66	1	43	43	熱容量	43	43	不可#1	-	-	-	-	※1
89	需要家線	66	1	-	-	熱容量	32	32	-	-	-	-	-	◇
90	需要家線	66	1	-	-	熱容量	32	32	-	-	-	-	-	◇
91	高瀬線	66	2	116	58	熱容量	17	17	可	58	-	-	-	
92	仁尾線	66	2	130	65	熱容量	42	17	可	65	-	-	-	
93	仁尾線	66	2	84	42	熱容量	37	17	可	42	-	-	-	※1
94	詫間支線	66	2	98	49	熱容量	31	17	可	49	-	-	-	
95	需要家線	66	1	-	-	熱容量	26	17	-	-	-	-	-	◇
96	豊中線	66	2	394	130	熱容量	114	114	可	250	-	-	-	
97	豊中線	66	2	158	79	熱容量	70	70	可	79	-	-	-	※1
98	常磐支線	66	2	250	125	熱容量	118	114	可	125	-	-	-	
99	常磐観音寺線	66	2	182	91	熱容量	85	85	可	91	-	-	-	
100	常磐観音寺線	66	2	180	90	熱容量	84	84	可	90	-	-	-	
101	需要家線	66	1	-	-	熱容量	52	52	-	-	-	-	-	◇
102	豊浜線	66	2	158	79	熱容量	43	43	可	79	-	-	-	
103	豊浜線	66	2	130	72	熱容量	48	43	可	58	-	-	-	
104	豊浜線	66	2	130	72	熱容量	48	43	可	58	-	-	-	
105	山本支線	66	2	84	42	熱容量	29	29	可	42	-	-	-	※1
106	需要家線	66	1	-	-	熱容量	32	32	-	-	-	-	-	◇
107	需要家線	66	1	-	-	熱容量	21	21	-	-	-	-	-	◇
108	番の州線	66	2	362	181	熱容量	181	124	可	181	-	-	-	
109	番の州線	66	2	362	181	熱容量	181	124	可	181	-	-	-	
110	番の州線	66	2	362	181	熱容量	181	124	可	181	-	-	-	
111	番の州線	66	2	248	124	熱容量	124	124	可	124	-	-	-	
112	需要家線	66	1	21	21	熱容量	21	21	不可#1	-	-	-	-	※1
113	需要家線	66	1	-	-	熱容量	30	21	-	-	-	-	-	◇
114	需要家線	66	1	-	-	熱容量	21	21	-	-	-	-	-	◇
115	川崎支線	66	2	102	51	熱容量	51	51	不可#3	-	-	-	-	※1
116	宇多津支線	66	2	250	125	熱容量	125	124	可	125	-	-	-	
117	富士見線	66	2	158	79	熱容量	79	79	不可#3	-	-	-	-	※1
118	需要家線	66	2	250	125	熱容量	116	0.0	不可#3	-	有り	-	変5	※1
119	需要家線	66	2	250	125	熱容量	125	0.0	不可#3	-	有り	-	変5	※1
120	需要家線	66	2	116	58	熱容量	58	0.0	不可#3	-	有り	-	変5	※1
121	需要家線	66	1	-	-	熱容量	58	0.0	-	-	有り	-	変5	◇

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御が 必要となりうる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
122	需要家線	66	2	84	42	熱容量	33	0.0	不可#3	—	有り	—	変5	※1
123	需要家線	66	1	—	—	熱容量	42	0.0	—	—	有り	—	変5	◇
124	電源線	66	1	—	—	熱容量	33	0.0	—	—	有り	—	変5	◇
125	需要家線	66	1	—	—	熱容量	30	0.0	—	—	有り	—	変5	◇
126	需要家線	66	1	—	—	熱容量	36	0.0	—	—	有り	—	変5	◇
127	需要家線	66	1	—	—	熱容量	24	0.0	—	—	有り	—	変5	◇
128	需要家線	66	1	—	—	熱容量	37	0.0	—	—	有り	—	変5	◇
129	琴平線	66	2	250	125	熱容量	79	79	可	125	—	—	—	
130	琴平線	66	2	182	103	熱容量	57	57	可	79	—	—	—	
131	琴平線	66	2	182	91	熱容量	64	57	可	91	—	—	—	
132	需要家線	66	1	—	—	熱容量	42	42	—	—	—	—	—	◇
133	垂水支線	66	2	182	91	熱容量	71	57	可	91	—	—	—	※1
134	垂水支線	66	2	182	91	熱容量	85	57	可	91	—	—	—	※1
135	東丸亀線	66	2	262	131	熱容量	131	131	不可#3	—	—	—	—	※1
136	電源線	22	1	—	—	熱容量	2	1	—	—	—	—	—	◇
137	需要家線	22	1	—	—	熱容量	2	2	—	—	—	—	—	◇
138	電源線	22	1	—	—	熱容量	2	2	—	—	—	—	—	◇
139	電源線	22	1	—	—	熱容量	0.2	0.2	—	—	—	—	—	◇

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量 (MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御が 必要となりうる設備		備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
		1	高松変電所					187	66				3	855	
2	香川変電所	187	66	3	399	282	熱容量	218	37	可	117	-	-	-	※2
3	大川変電所	187	66	1	190	190	熱容量	109	109	不可#4	-	-	-	-	※1
4	麻変電所	187	66	3	760	532	熱容量	427	427	可	228	-	-	-	※2
		66	6.6	1	14	14	熱容量	2	2	不可#2	-	-	-	-	
5	坂出火力変電所	187	66	2	285	156	熱容量	0.0	0.0	可	0.0	有り	対象	-	
		66	22	1	-	-	熱容量	14	14	-	-	-	-	-	◇
6	西通変電所	66	22	1	42	42	熱容量	42	42	不可#2	-	-	-	-	
		66	6.6	2	57	57	熱容量	57	57	不可#2	-	-	-	-	
7	高松中央変電所	66	6.6	3	61	61	熱容量	61	30	不可#2	-	-	-	-	
8	丸の内変電所	66	6.6	3	28	28	熱容量	28	19	不可#2	-	-	-	-	
9	松島変電所	66	22	1	42	42	熱容量	42	37	不可#2	-	-	-	-	
		66	6.6	2	47	47	熱容量	47	37	不可#2	-	-	-	-	
10	東浜変電所	66	6.6	3	76	76	熱容量	76	28	不可#2	-	-	-	-	
11	上天神変電所	66	22	1	-	-	熱容量	9	9	-	-	-	-	-	◇
		66	6.6	2	38	38	熱容量	38	38	不可#2	-	-	-	-	
12	香東変電所	66	22	3	38	19	熱容量	19	19	不可#2	-	-	-	-	
		66	6.6	3	52	52	熱容量	50	50	不可#2	-	-	-	-	
13	端岡変電所	66	6.6	2	33	33	熱容量	17	17	不可#2	-	-	-	-	
14	府中変電所	66	22	1	-	-	熱容量	0.0	0.0	-	-	-	-	-	◇
		66	6.6	2	19	19	熱容量	0.3	0.3	不可#2	-	-	-	-	
15	坂出変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	11	11.0	不可#2	-	-	-	-	
16	大浜変電所	66	6.6	3	42	42	熱容量	42	11	不可#2	-	-	-	-	
17	林田変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	17	0.0	不可#2	-	-	-	-	
18	笠山変電所	66	22	1	-	-	熱容量	0.0	0.0	-	-	-	-	-	◇
		66	6.6	2	28	28	熱容量	28	28	不可#2	-	-	-	-	
19	由佐変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	17	17	不可#2	-	-	-	-	
20	仏生山変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	50	37	不可#2	-	-	-	-	
21	栗林変電所	66	6.6	3	76	76	熱容量	76	37	不可#2	-	-	-	-	
22	六条変電所	66	6.6	1	19	19	熱容量	18	18	不可#2	-	-	-	-	
23	屋島変電所	66	6.6	3	76	76	熱容量	64	37	不可#2	-	-	-	-	
24	長尾変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	19	19	不可#2	-	-	-	-	
25	志度変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	33	28	不可#2	-	-	-	-	
26	三木変電所	66	6.6	1	19	19	熱容量	14	14	不可#2	-	-	-	-	
27	亀田変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	20	20	不可#2	-	-	-	-	
28	津田変電所	66	6.6	2	23	23	熱容量	15	15	不可#2	-	-	-	-	

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量 (MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御が 必要となる設備		備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
		29	大内変電所					66	6.6				3	52	
30	引田変電所	66	6.6	2	19	19	熱容量	7	7	不可#2	-	-	-	-	
31	綾南変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	24	19	不可#2	-	-	-	-	
32	普通寺変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	46	46	不可#2	-	-	-	-	
33	多度津変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	44	44	不可#2	-	-	-	-	
34	昭和変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	28	28	不可#2	-	-	-	-	
35	塩屋変電所	66	6.6	3	42	42	熱容量	42	42	不可#2	-	-	-	-	
36	丸亀変電所	66	22	1	-	-	熱容量	9	9	-	-	-	-	-	◇
		66	6.6	3	57	57	熱容量	57	57	不可#2	-	-	-	-	
37	高瀬変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	13	13	不可#2	-	-	-	-	
38	詫間変電所	66	22	1	9	9	熱容量	2	2	不可#2	-	-	-	-	
		66	6.6	2	28	28	熱容量	17	17	不可#2	-	-	-	-	
39	仁尾変電所	66	6.6	2	16	16	熱容量	8	8	不可#2	-	-	-	-	
40	豊中変電所	66	22	1	9	9	熱容量	9	9	不可#2	-	-	-	-	
		66	6.6	2	28	28	熱容量	12	12	不可#2	-	-	-	-	
41	常盤変電所	66	6.6	2	38	38	熱容量	37	37	不可#2	-	-	-	-	
42	観音寺変電所	66	22	2	19	9	熱容量	9	9	不可#2	-	-	-	-	
		66	6.6	3	42	42	熱容量	34	34	不可#2	-	-	-	-	
43	山本変電所	66	6.6	2	33	33	熱容量	10	10	不可#2	-	-	-	-	
44	豊浜変電所	66	22	2	21	11	熱容量	1	1	不可#2	-	-	-	-	
		66	6.6	3	52	52	熱容量	39	39	不可#2	-	-	-	-	
45	藩の州変電所	66	6.6	2	19	19	熱容量	19	19	不可#2	-	-	-	-	
46	宇多津変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	47	47	不可#2	-	-	-	-	
47	富士見変電所	66	6.6	2	23	23	熱容量	23	23	不可#2	-	-	-	-	
48	垂水変電所	66	6.6	1	19	19	熱容量	13	13	不可#2	-	-	-	-	
49	琴平変電所	66	22	1	-	-	熱容量	1	1	-	-	-	-	-	◇
		66	6.6	3	47	47	熱容量	28	28	不可#2	-	-	-	-	